MolTEX

新崎康樹

2004 年 4 月 17 日

たとえば文中に分子式が入る

stretching of the —N=O moiety of the electronically excited state CH_3O—N=O

というのは

```
stretching of the \mol{-N=O} moiety of the electronically excited state
\mol{CH3O-N=O}
```

分子式だけの行にして、数式番号をふる

$$H + D_2(v = 0, j = 0) \rightarrow HD(v', j') + D \tag{1}$$

は

```
\begin{molform}
H+D2$(v=0,j=0)$->HD$(v^{\prime},j^{\prime})$+D
\end{molform}
```

などとなります ($で区切って数式が書けます)。eqnarray 環境と同様に使う、molfarray 環境というのもあります。普通の数式中の「^」の他、角かっこ「[」「]」で囲んだものも上付き文字になります。

$$\begin{aligned} H_2SO_4 + H_2O &\rightleftharpoons H_3O^+ + HSO_4^- \\ HSO_4^- + H_2O &\rightleftharpoons H_3O^+ + SO_4^{2-} \end{aligned} \tag{2}$$

ソースは

```
\begin{molfarray}
H2SO4+H2O & <=> & H3O[+]+HSO4[-] \nonumber\\
HSO4[-]+H2O & <=> & H3O[+]+SO4[2-]
\end{molfarray}
```

矢印や結合

```
-> <- <-> <=> - =
```

つまり

$\rightarrow \leftarrow \leftrightarrow \rightleftharpoons — =$

や「+」やかっこは区切り記号となります。

区切られる個々の項目は「分子」に自然なように解釈されます。

```
\mol{2C{n}H{2n+2}}
```

で $2C_nH_{2n+2}$。先頭の数字列は普通の大きさ、項の中の数字列は下付き添字になります。なみかっこ「{}」で囲まれた部分は数字列と同じ扱いで、「元素記号」の部分は任意の英字列およびかっこです。